

外来語「ケア」とその類義語について

西村 優子

一 はじめに

高齢化が進む日本にとって、医療や介護は社会に必要不可欠なものであり、新しい制度や技術も次々と誕生している。それにより専門用語も増え、その専門用語を使用する機会も増加している。

国立国語研究所（二〇〇三）によると、外来語を言い換えてほしい分野に関する問いの回答で、医療・福祉分野（五六・〇％）は政治・経済（五六・四％）に続いて二番目に多かった。^{〔一〕}用語の理解が不十分であれば、治療や介護の方法を適切に決定することができず、その後の生活の質が下がり、本人だけでなく家族や周囲の人の不安や負担も大きくなるといった問題が起こりうる。つまり、医療・福祉の専門用語は専門職者だけではなく、すべての人にとって重要なものである。

そこで、医療・福祉分野における外来語がどのように使用され

ているかを明らかにするために、本稿では医療・福祉分野だけでなく、日常のさまざまな場面で使用される外来語「ケア」と、その類義語、言い換え語である漢語「介護」を取り上げる。「ケア」は複合語の一部として使用されることも多いため、「ケア」と「介護」がどのような複合語を構成するかという点から、両語の特徴を明らかにしていきたい。

二 先行研究

本稿で調査対象とする「ケア」を取り上げた研究として陳（二〇一四）がある。

陳（二〇一四）では、二〇〇六年の『中日新聞』を資料として、「ケア」と「介護」の相違について検討している。具体的には、「意味フレーム」（ある語と結びついた背景的世界知識）などを用い、「ケア」と「介護」の「直前直後共起語」「文中共起語」を分析し、両語の違いを明らかにしている。陳（二〇一四）では

「意味フレーム」を〈制度〉〈病状／治療〉〈美容〉など一二類に分け、調査の結果、「ケア」は医療・精神・美容面で使用されるのに対し、「介護」は医療面でのみ用いられているとする。また、共起語の語種については、「ケア」が全ての語種と共起するのに対し、「介護」は主に漢語・和語と共起するとしている。

陳(二〇一四)は、大規模データの活用により「ケア」と「介護」の相違を明らかにしようとしたものとして重要な研究である。しかし問題点として、次のことを指摘することができる。まず、調査資料がブロック紙一紙であり、新聞における「ケア」と「介護」の使用実態を明らかにしたということにとどまるのではないかという点である。現代語における「ケア」と「介護」の特徴を明らかにするためには、幅広いレジスターを調査する必要がある。

また、陳(二〇一四)における「直前直後共起語」の多くは、「ケア」「介護」と結合した語であるが、助詞を介して隣接しているものも含まれている。そのため、複合語の形成という点から見た場合、正確さに欠けるところがある。複合語という点から「ケア」と「介護」の特徴を明らかにするためには、再調査が必要である。

以上の問題意識をふまえ「ケア」と「介護」がそれぞれのよな語と結び付きやすいのか調査する。具体的には、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJと略す)で集めた用例から複合語を抽出し、「ケア」「介護」と結合する語の特徴

について、語種と意味分野から分析していく。

三 調査資料・調査方法

本稿では複数のレジスターを収録したBCCWJを資料とした。BCCWJには二種類の言語単位があるが、そのうち短単位データ(一・一)を用いることとし、Web検索ツール「中納言」(二・一・〇)で調査対象語を検索し、用例を取得した。²⁾「ケア」を例に検索条件式を示すと、次のとおりである。

```
キー：語彙素＝「ケア」、WITH OPTIONS unit="1" AND
lg|Words="20" AND limitToSelfSentence="0" AND endOfLine
="CRLF" AND lg|Kugiri="]" AND encoding="UTF-8" AND
lg|FixVariable="2"
```

各語の使用例数の総数は「ケア」が三〇五五語で、「介護」が九六六六語である(あらかじめごみを取り除いた数)。

単語検索で取得した用例の前後文脈を目視で確認し、複合語を抽出した。抽出した複合語は、「ケア」が二四〇九語で、「介護」が九二六七語であった。「ケア」は全用例数のうち六五・七%が、「介護」は同じく八〇・三%が複合語として用いられていることになる。このことから、両語が複合語を形成しやすい語であることがわかる。さらに、「ケア」「介護」と結合する語を、「ケア」

（介護）の前方に位置する語（以下、前方要素）と後方に位置する語（以下、後方要素）とに分けて集計し、分析を行った。以下、用例に付した下線は、筆者によるものである。

四 調査結果・考察

四・一 「ケア」の前方要素・後方要素

まずは「ケア」の前方要素と後方要素について見ていく。表1は「ケア」の前方要素・後方要素の語種に関して、それぞれの異なり語数と延べ語数とをまとめたものである。表2は前方要素の上位一〇語を、表3は後方要素の上位一〇語を示したものである。

表1をみると、「ケア」は外来語・漢語と結合しやすいのに対し、和語とはあまり結合しないことがわかる。漢語は前方要素の異なり語数・延べ語数、後方要素の異なり語数・延べ語数のいずれにおいても三〇％から五〇％台の、外来語は同じく三〇％台から六〇％台の割合となっており、漢語と外来語で九〇％以上を占めている。

また、漢語・外来語との結合については、前方要素と後方要素で違いがある。前方要素では異なり語数・延べ語数とも外来語の比率が最も高いが、後方要素では、異なり語数は漢語の、延べ語数は外来語の割合が最も高くなっている。

表2・表3を見ると、前方要素・後方要素とも上位一〇語は外

表1 「ケア」の前方要素・後方要素の語種

	「ケア」前方要素				「ケア」後方要素			
	異なり語数		延べ語数		異なり語数		延べ語数	
語種	語数	%	語数	%	語数	%	語数	%
和語	13	6.1	17	1.2	5	3.0	22	2.2
漢語	93	43.9	531	38.0	100	59.9	330	32.4
外来語	105	49.5	826	59.1	62	37.1	660	64.8

表2 「ケア」の前方要素（上位10語）

順位	前方要素	使用例数	語種
1	スキン	163	外
2	ターミナル	85	外
3	デイ	85	外
4	地域	74	漢
5	口腔	55	漢
6	在宅	49	漢
7	〇〇的	47	漢
8	セルフ	42	外
9	プライマリー	37	外
10	ボディ	36	外

表3 「ケア」の後方要素（上位10語）

順位	後方要素	使用例数	語種
1	プラン	137	外
2	マネジャー	112	外
3	マネジメント	102	外
4	プラザ	52	外
5	センター	38	外
6	用品	25	漢
7	ハウス	24	外
8	施設	23	漢
9	サービス	23	外
10	システム	22	外

来語が過半数を占めている。前方要素の例を示すと、

(一) 一番効果的なスキンケアは化粧品ではなく「規則正しい生活」(PB31_00077)

(二) 医療費節約のために在宅ケアをすすめよう (LB13_00136)

などが挙げられる。これらの複合語は美容や介護、医療などに関する語といえる。

後方要素の例としては、

(三) 要介護者のケアプランを作成している介護支援専門員 (PB24_00024)

(四) ホームヘルパー、訪問看護師、ケアマネジャーなど在宅介護に関わる (OP56_00001)

(五) 公的ケア施設は非常に少ないため、大部分の高齢者は (LBp3_00143)

などが挙げられる。前方要素とは異なり、いずれも介護に関する語である。

四・二 「介護」の前方要素・後方要素

次に、「介護」の前方要素と後方要素について見ていく。表 4

表 4 「介護」の前方要素・後方要素の語種

	「介護」前方要素				「介護」後方要素			
	異なり語数		延べ語数		異なり語数		延べ語数	
語種	語数	%	語数	%	語数	%	語数	%
和語	3	3.7	30	1.3	6	2.6	36	0.5
漢語	76	93.8	2268	98.6	184	79.0	6141	88.1
外来語	2	2.5	2	0.1	40	17.2	684	9.8

表 5 「介護」の前方要素（上位 10 語）

順位	前方要素	使用例数	語種
1	要	862	漢
2	在宅	205	漢
3	居宅	183	漢
4	訪問	135	漢
5	家族	104	漢
6	生活	90	漢
7	高齢者	81	漢
8	〇〇的	67	漢
9	通所	50	漢
10	老人	47	漢

表 6 「介護」の後方要素（上位 10 語）

順位	後方要素	使用例数	語種
1	保険	2078	漢
2	サービス	525	外
3	者	464	漢
4	予防	424	漢
5	支援	314	漢
6	認定	270	漢
7	老人	233	漢
8	休業	203	漢
9	福祉	184	漢
10	休暇	142	漢

は「介護」の前方要素・後方要素の語種に関して、それぞれの異なり語数と延べ語数とをまとめたものである。表5は前方要素の上位一〇語を、表6は後方要素の上位一〇語を示したものである。

表4を見ると「介護」は漢語と結合しやすいことがわかる。漢語は前方要素で異なり語数・延べ語数とも九〇％以上を、後方要素で異なり語数・延べ語数とも八〇％以上を占めている。外来語は後方要素で異なり語数一七・二％、延べ語数九・八％を占めるものの、漢語の割合との差は大きい。和語はさらに低い割合となっており、「介護」は和語・外来語とはほとんど結合しないということができる。

表5・表6をみても、表6の第二位に「サービス」があるほかは、すべて漢語である。前方要素の例は、

(六) 高齢の方や要介護の方が、在宅で安全に暮らしたり
(OP 72_00001)

(七) 介護の仕組みを家族介護から社会介護へ (PB 13_00367)

のように、介護の種類や状態を示すものが多い。

一方、後方要素の例としては、

(八) 全額が介護保険で支給される (LBs 3_00169)

外来語「ケア」とその類義語について

(九) 介護認定を行い、要介護度の決定をした後 (PB 24_00024)

などが挙げられ、介護の制度や仕組みに関する語が多い。

四・三 前方要素・後方要素の意味分野

本節では、「ケア」「介護」の前方要素、後方要素の特徴について、『分類語彙表⁵⁾』を用い、意味分野の面から見ていく。

「ケア」「介護」それぞれの前方要素、後方要素を『分類語彙表』の「中項目」で分類し、各分類の延べ語数を示したのが表7である。表7では、前方要素・後方要素を区別せず、まとめて集計した。また、紙幅の関係で、「体の類」のみを示した。なお、「ケア」「介護」の前方要素、後方要素には、『分類語彙表』に収録されていない語もあるが、それらは分析の対象から除外した。

表7をみると、「ケア」の中で最も多い意味分野は、「一・五六 身体」(二六四件)で、「一・三〇 心」が三六件、「一・三六 待遇」が二〇一件でそれに続いている。「一・五六 身体」に分類される語は「スキン(ケア)」、「毛穴(ケア)」また用例一〇の「頭皮(ケア)」などであり、「美容」の分野で用いられるものが多いなどである。

(一〇) 頭皮ケアで、ダメージヘアも回復 (PM 21_00995)

表7 「ケア」「介護」と結合する語の意味分野

部門	中項目		ケア	介護
抽象的關係	1.10	事柄	3	9
	1.11	類	47	81
	1.12	存在	1	2
	1.13	様相	45	312
	1.14	力	8	32
	1.15	作用	39	67
	1.16	時間	77	177
	1.17	空間	86	59
	1.18	形	6	30
人間活動の主体	1.19	量	52	195
	1.20	人間	55	782
	1.21	家族	3	112
	1.22	仲間	2	
	1.23	人物	21	7
	1.24	成員	157	145
	1.25	公私	15	11
	1.26	社会	100	133
	1.27	機関	33	109
人間活動— 精神および行為	1.30	心	236	231
	1.31	言語	31	20
	1.32	芸術		
	1.33	生活	103	1336
	1.34	行為	10	53
	1.35	交わり	6	450
	1.36	待遇	201	349
	1.37	経済	33	3808
	1.38	事業	126	99
生産物および行為	1.40	物品	18	
	1.41	資材	7	
	1.42	衣料	2	1
	1.43	食料	17	
	1.44	住居	39	215
	1.45	道具	36	58
	1.46	機械	59	58
	1.47	土地利用		
自然物および用具	1.50	自然	29	
	1.51	物質	4	
	1.52	天地		
	1.53	生物	2	
	1.54	植物		
	1.55	動物	5	1
	1.56	身体	264	31
	1.57	生命	32	29

「一・三〇 心」に分類されるものには「(ケア)プラン」や「(ケア)問題」、「ストレス(ケア)」などが挙げられる。また、「一・三六 待遇」の例としては、「(ケア)マネジメント」「(ケア)指導」、「育児(ケア)」がある。

上位の三分野を合わせると七〇一件で、「ケア」の複合語二四〇九語の二九・一%を占めることがわかる。上位三分野を合わせても複合語全体の三分の一にも満たないことと、上位三分野がどれも二〇〇件台であり特別に突出している分野はないことから、「ケア」がさまざまな意味分野の語と幅広く結び付いており、大きな偏りは見られないということがわかる。

一方、「介護」は「一・三七 経済」の語が三八〇八語と圧倒的に多く、次に「一・三三 生活」が一三三六件と続いている。

「一・三七 経済」の例には、「要(介護)」、「(介護)保険」、「(介護)サービス」などがある。

(一) 介護保険法に規定されたグループホーム (PB 13_00011)

(二) 保険給付として定められている介護サービス (PB 13_00011)

例一や二のように「介護」に関する制度や法に関する用語の使用が多いために件数が伸びたと考えられる。また、「一・三三 生活」では「入浴(介護)」、「(介護)予防」、「(介護)福祉」のような例が挙げられる。

上位二分野の合計が五一四四件で、「介護」の全複合語九二六七語のうち五五・五％と、過半数を占める。さらに、この二分野はどちらも「人間活動―精神および行為」の部門に属しており、結び付く語の意味分野には偏りがあることがわかる。

五 終わりに

今回の調査によって、「ケア」と「介護」について以下のことが明らかになった。

「ケア」

- ・複合語を構成する場合、外来語と結合することが最も多く、漢語がそれに続く。和語とはほとんど結合しない。
- ・結合する語の意味分野では「一・五六 身体」「一・三〇心」「一・三六 待遇」が多い。
- ・これら上位三分野で複合語全体の二九・一％を占めるにとどまっており、結合する語に大きな偏りはなく幅広い意味分野の語と結合する傾向が見られる。

「介護」

- ・漢語と複合語を構成しやすく、外来語と和語との結合は少ない。
- ・結合する語の意味分野は「一・三七 経済」が圧倒的に多く、続く「一・三三 生活」と合わせて過半数を占める。結

合する語の意味分野の偏りを表している。

今回調査に用いた BCCWJ は、一九七六年から二〇〇九年を対象とした書き言葉コーパスである。したがって、上記の結果も二〇〇九年までの使用実態ということになるため、さらに今後それ以降の動向も調査していく必要がある。

「ケア」という語を目にする機会は増えており、それに伴って、高齢者を中心に意味を知らない人々にもこの言葉が使用される状況が増える可能性がある。幅広い意味を持つため、その言い換え語もここであげた「介護」以外にも多数あると考えられる。外来語はすでに日本語に確実に流入しており、外来語を使用しないということは困難であろう。使用を減らそうとする取り組みよりも大事なことは、コミュニケーションをとる相手の反応をしっかりと読み取り、相手がわかるように伝えようとする意識を常にもつことである。

注

- (1) 全国四五〇〇人を対象にした外来語の使用などに関する意識調査。
- (2) BCCWJ については、山崎 (二〇〇七)、前川 (二〇〇八) を参照。
- (3) 表1に示したもののほか英語と結合した例もあるが、非常に少なかったため、表には示さなかった。

- (4) 表4に示したもののほか英語・数字と結合した例もあるが、非常に少なかったため、表1と同様、示さなかった。また、この数字とは、次の例のように介護度を示す数字である。要介護1以上ならさらに施設介護サービスを利用できます。(LBS_00169)
- (5) 『分類語彙表』とは、収録語数が約九万六千語で、その採用範囲は「現代の日常生活で普通に用いられる語を中心に、各種語彙調査の結果その他から選定した」とされている。分類には「分類番号」が使用されており、その番号によって、より広い概念から順に、「類」「部門」「中項目」「分類項目」となっている。
- (6) 以下の記述で複合語の割合に言及することがあるが、その母数には表7で除外した数も含む。

参考文献

- 国立国語研究所 (二〇〇三) 『外来語に関する意識調査(全国調査)』 <https://www.ninjal.ac.jp/archives/genzai/ishiki/kekka/>
二〇一五年十二月二日閲覧
- 陳曉靜 (二〇一四) 「類義語としてのカタカナ語・漢語の意味的相違―「ケア」と「介護」の意味上の相違について」、『立命館文学』六三七、一―一三頁
- 前川喜久雄 (二〇〇八) 『KOTONOHA』現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」、『日本語の研究』四(一)、八二

〃九五頁

山崎誠 (二〇〇七) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の基
本設計について』『特定領域「日本語コーパス」平成一八
年度公開ワークショップ(研究成果報告会) 予稿集』、一
二七―一三六頁

調査資料

国立国語研究所 (二〇〇四) 『分類語彙表―増補改訂版』、大日
本図書

(にしむら・ゆうこ 二〇一五年度本学卒業生)